

四條畷市埋蔵文化財包藏地調査概要 20

# 四條畷市埋蔵文化財発掘調査概要

—— 1985 年度 ——

1986・3

四條畷市教育委員会

# 四條畷市埋蔵文化財発掘調査概要

—— 1985 年度 ——

中野遺跡第 8 次発掘調査

雁屋遺跡第 3 次発掘調査

1986・3

四條畷市教育委員会

## はしがき

今回報告の第1部、中野遺跡Ⅱは、四條畷市水道局より国道163号をへだてて、南約100mの地点にあり、住宅建設に伴う緊急発掘調査を行った遺跡である。

水道局南側の中野遺跡は、かつて国道163号の拡幅工事ならびに天然ガス管埋設工事に伴う調査によって発見され、古墳時代中期の溝、落ち込み状遺構等の検出と共に、当時の馬の頭骨、製塙土器、有孔円板等の石製品が出土している。

今回の調査においては上記遺構に続く溝の所在を予想していたが、これは検出できず、古墳時代中期の二条の溝を検出、溝からは当時の須恵器、土師器各種の遺物が発見され、中野遺跡の範囲はさらに拡大することが確認できた。

報告の第2部は、四條畷市江瀬美町、府立四條畷高等学校北50mの地点で病院建設の計画があり、これに伴う試掘を行った結果である。この辺一帯は昔の河内潟に接する低湿地であったと予想され、弥生時代の遺物の出土を予想していたが、試掘結果は2層に亘って弥生時代中期・後期の遺物の出土をみると共にその包含層を確認した。当時の住居跡あるいは方形周溝墓の存在も予想され、今後の綿密な調査の必要性を確認した。

なお上記2遺跡の調査にあたって、大阪府教育委員会のご指導ならびに中田勝昭、角淳一、吉川幸弘各氏をはじめ多くの方々のご協力を得たことに深く感謝の意を表するものである。

四條畷市教育委員会

教育長 櫻井敬夫

## 例　　言

1. 本書は、四條畷市教育委員会が昭和60年度国庫ならびに府補助金の交付を受けて担当実施した中野遺跡他計2遺跡の発掘調査報告書である。

中野遺跡第8次発掘調査……昭和60年7月1日～8月31日

雁屋遺跡第3次発掘調査……昭和60年7月23日・

昭和60年9月9日～9月14日

2. 発掘調査は、四條畷市教育委員会歴史民俗資料館技師・野島 稔を担当者とし、補助員として、吉田武司、吉田安宏、福西啓仁、川口典之、籠本政道、岩川敏彦、河江 覚、菊地英樹、堀田英明があたった。

出土遺物の整理・実測などについては、野島、福西、吉田、川口、川本三智子、秋山敬子、泉 節子、林 百合子、西川裕里、田嶋智子、植村千種があたった。

3. 本書の執筆は、野島 稔が行った。

4. 発掘調査の進行・報告書作成などについては、大阪経済法科大学・瀬川芳則、大阪府教育委員会・堀江門也・玉井 功、寝屋川市教育委員会・塙山則之、(財)枚方市文化財研究調査会・宇治田和生・三宅俊隆・桑原武志、歴古文化研究保存会の諸機関、諸氏から種々のご教示をうけた。明記して厚く感謝の意を表したい。

5. 発掘調査の進行については、土地所有者・角 淳一、中田勝昭、吉川幸弘各氏には終始懇切なご協力をうけることができた。

## 本 文 目 次

はしがき

例 言

第1章 調査に至る経過.....	1 頁
第2章 中野遺跡第8次発掘調査.....	4 頁
1. 遺跡の概要.....	4 頁
2. 層 位.....	5 頁
3. 遺 構.....	5 頁
第3章 雁屋遺跡第3次発掘調査.....	7 頁
1. 遺跡の概要.....	7 頁
2. 調査概要.....	8 頁
3. 遺 物.....	8 頁

## 挿 図 目 次

- 第1図 中野・雁屋遺跡周辺地形遺跡分布図
- 第2図 中野遺跡調査地位置図
- 第3図 中野遺跡溝A・溝B平面実測図
- 第4図 雁屋遺跡調査地位置図

## 図 版 目 次

- 図版1 中野遺跡周辺の航空写真
- 図版2 中野遺跡調査地全景
- 図版3 中野遺跡遺構検出状況・遺構全景
- 図版4 中野遺跡遺構全景
- 図版5 中野遺跡遺物写真・土器Ⅰ
- 図版6 中野遺跡遺物写真・土器Ⅱ
- 図版7 雁屋遺跡周辺の航空写真
- 図版8 雁屋遺跡調査地全景
- 図版9 雁屋遺跡南北第1トレンチ
- 図版10 雁屋遺跡南北第2・3トレンチ
- 図版11 雁屋遺跡遺物写真・土器Ⅰ
- 図版12 雁屋遺跡遺物写真・土器Ⅱ
- 図版13 雁屋遺跡遺物写真・土器Ⅲ
- 図版14 雁屋遺跡遺物写真・土器Ⅳ
- 図版15 雁屋遺跡遺物写真・土器Ⅴ
- 図版16 雁屋遺跡遺物写真・土器Ⅵ
- 図版17 雁屋遺跡遺物写真・石器Ⅰ

# 第1章 調査に至る経過

四條畷市は大阪府の北東部に位置し、東は奈良県に、西は寝屋川市、南は大東市、北部は交野市に隣接する東経 $135^{\circ}38'$ 、北緯 $34^{\circ}44'$ にある。地勢の東半分は生駒山系支脈の山地で、主として第3期花崗岩によって形成された地質である。西部平坦地は山地から流出した砂礫による沖積層となっている。

本市のほぼ中央を南北に通じる東高野街道、東西に通じる清滝街道沿いには中世の掘立柱建物跡・井戸・溝等の遺構が存在し、中世村落が栄えていたことがうかがえる。このように四條畷は陸路交通の要地として地理的に重要な位置を占めていたことは、多くの遺跡の存在によっても推測できる。

生駒山系の西側斜面の枚方台地は、北は八幡丘陵から南は南野丘陵までの淀川左岸にひろがる広大な丘陵、段丘があり、この枚方台地は大きく北から枚方市船橋川・穂谷川・交野市天野川・寝屋川市寝屋川・四條畷市譲良川・清滝川という中小河川によって開かれている。この枚方台地には原始・古代の幾多の遺跡の存在が知られている。旧石器時代の遺跡としては譲良川床造跡からナイフ形石器・細石器・削器・彫器・礫器、岡山南遺跡から木葉状尖頭器が出土している。縄文時代になると遺跡も増え、早期の押型文土器が出土した田原遺跡をはじめ南山下遺跡・砂遺跡・更良岡山遺跡・岡山南遺跡・清滝古墳群など、とくに後・晩期の遺跡が数多く存在する。弥生時代になると西に移り古代河内湾の最北端に位置する雁屋遺跡に大阪府で最古の集落が営まれていた。古墳時代になると、とくに丘陵先端部に全長約90mの前方後円墳で後円部に長さ約6.3m・幅約1mの竪穴式石室を今なお見ることのできる前期の忍岡古墳や、後期には更良岡山古墳群・清滝古墳群がよく知られている。古墳時代の集落の発見は四條畷市の台地上一帯に知られている。とくに岡山南遺跡から切妻造の家形埴輪や円筒埴輪・衣蓋埴輪・動物埴輪、忍ヶ丘駅前遺跡から見事な人物埴輪等が古墳以外の場所で出土している。又、奈良井遺跡から1辺40mの方形周溝造構の祭祀場が検出され、周溝内から多量の土器とともに手握ね土器・人形・動物形土製品・滑石製臼玉がそれぞれ一括で出土している。又、同一溝内から小型の蒙古系馬が埋葬された状態で出土している。中世から近世に亘る遺跡も数多くある。近年、四條畷市内では片町線の複線化の完成と同時に住宅建設・整備事業などに伴う発掘調査も數多く行っている。

1. 中野遺跡 本遺跡は古墳時代中期と鎌倉時代から室町時代にかけての複合遺跡としてよく知られている。近年この地域にも開発の波が押し寄せ、住宅が建ち並んでいる。今回の調査地は中野新町745-1・745-2・745-7における住宅建設設計画に伴うものであり、昭和52年度に大阪瓦斯天然ガス管理設工事に伴う調査において、古墳時代中期の大溝が確認され、



第1図 中野・雁屋遺跡周辺地形遺跡分布図 (S=1/25,000)

- |                |            |               |
|----------------|------------|---------------|
| 1. 砂遺跡         | 7. 坪井遺跡    | 14. 四條畷小学校内遺跡 |
| 2. 砂山銅鐸出土地(推定) | 8. 忍ヶ丘駅前遺跡 | 15. 中野遺跡      |
| 3. 北山遺跡        | 9. 南山下遺跡   | 16. 墓の堂古墳     |
| 4. 奈良田遺跡       | 10. 岡山南遺跡  | 17. 塚脇遺跡      |
| 5. 忍ヶ岡古墳       | 11. 奈良井遺跡  | 18. 南野米崎遺跡    |
| 6. 謙良川遺跡・謙良寺跡  | 12. 正法寺跡   | 19. 雁屋遺跡      |
| 更良岡山古墳群        | 13. 清滝古墳群  | 20. 北新町遺跡     |

多量の土器とともに製塙土器及び馬の下顎が出土した場所の南側にあたり、昭和60年7月1日から8月31日まで発掘調査を実施した。

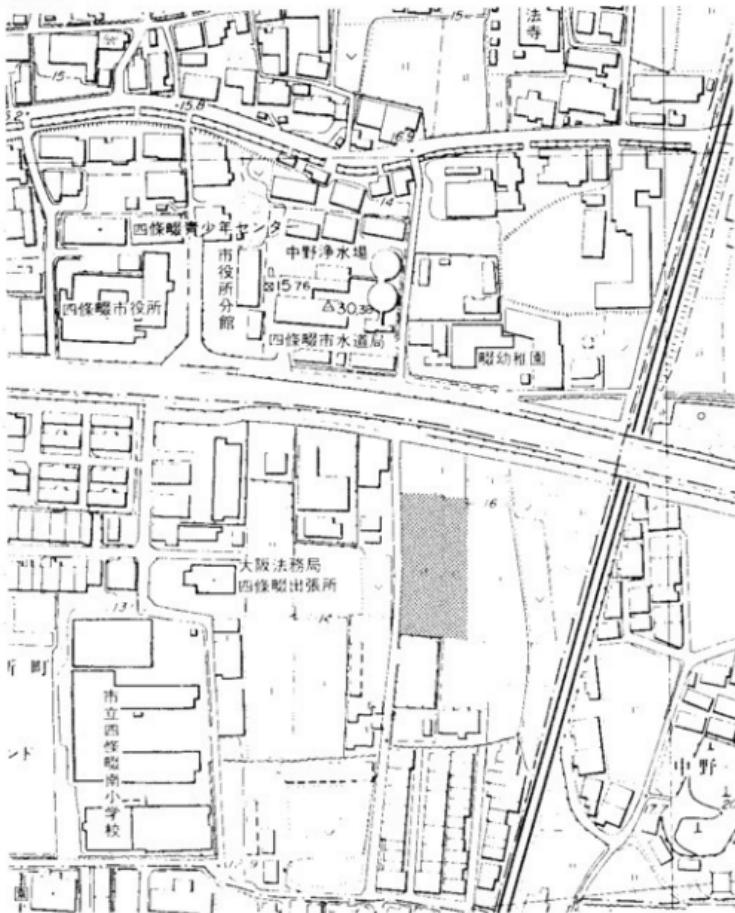
2. 雁屋遺跡 本遺跡は昭和58年に日本道路公団四條畷社宅建設に伴う調査において、地表下約2.5mから弥生時代前期の遺物包含層・黒色粘土層が確認され、その層内から弥生時代前期（畿内第I様式中段階）の壺・甕の土器類が出土した地域で、今回の調査地は前調査地の東約500mの江瀬美町600番1の旧坂本興業株式会社大東工場跡地に病院建設が計画されたため、試掘調査を実施した。その結果、弥生時代中期の落ち込み状遺構及び大溝

が検出され、各遺構内から中期の壺・甕・石庖丁を確認した。昭和60年7月23日と昭和60年9月9日から9月14日まで発掘調査を実施した。

## 第2章 中野遺跡第8次発掘調査

### 1. 遺跡の概要

四條畷市中野本町から中野新町にかけて所在する中野遺跡は、生駒山系から派生する丘陵地形の上に立地している。なお付近の丘陵には多くの遺跡が存在しており、特に古墳



第2図 中野遺跡調査地位置図 ( $S=1/2,500$ )

時代と中世の遺跡が多い。中野遺跡の調査は昭和51年度に国鉄片町線複線化に伴い、国道163号線と交叉する場所を中心に調査し、その後、昭和52年から昭和53年にかけて大阪瓦斯天然ガス管理設工事に伴い国道163号線南北側道と片町線西側の岡嶋胡粉砥粉製造株式会社の工場敷地内の調査をしている。この調査において大溝が確認され、古墳時代中期の多量の各種土器とともに製塙土器及び馬下顎が北河内内で初めて出土し、河内湖岸における製塙活動の場所であったことが証明された。又、馬の出土によって中野遺跡が馬飼いの集団の生活場所であったとも推定される場所でもあった。その後、国道163号線の拡幅工事に伴う調査や、電々公社の地下埋設ケーブル工事に伴う調査において古墳時代掘立柱建物跡、中世の石組井戸・曲物井戸、溝等の遺構が検出され、又、今回の調査区の東側水田地の調査においても古墳時代中期の須恵器、土師器が出土し、この一帯が古墳時代と鎌倉時代、室町時代にかけての大集落遺跡であることが確認できた。

## 2. 層位

調査地の中央部に設定した第1トレンチの北壁断面の基本層序は、第Ⅰ層耕土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層黄褐色粘質土、第Ⅳ層褐色粘質土、第Ⅴ層淡褐色粘質土となる。各層は東から西へ少し傾斜しているが、これは地形を利用したもので遺構のベース面は黄褐色砂質土層となっている。

第Ⅰ層 調査前まで水田となっていた。

第Ⅱ層 厚さ10cmで全域に認められる。

第Ⅲ層 厚さ10~50cmで東から西へ傾斜している。

第Ⅳ層 厚さ12cm~33cmで第Ⅲ層同様に傾斜している。

第Ⅴ層 厚さ12cmで一部だけの堆積土である。

## 3. 遺構

今回の調査において検出された遺構は溝A・溝Bの2条が平行して検出（図版3・4）されたもので、溝Aは、幅は北部上段で2.9m、下段で1m、南部上段では1.8m、下段で50cmであった。断面はU字形状を呈している。

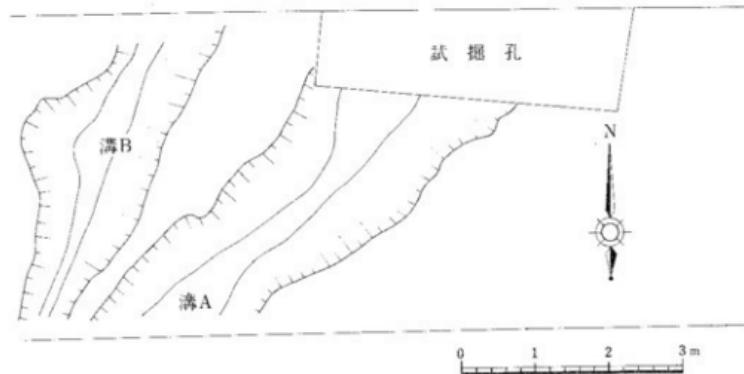
遺構肩部の標高は、T-P・14.700mで深さ約60cmである。底面での北端と南端との比高差は約25cmで北から南への水流過程があったものとみられる。

溝内堆積土層は褐色砂質土層で須恵器壺・土師器壺・甕、高坏等（図版5・6）が出土している。溝Bは、幅は北部上段で1.4m、下段で30cm、南部上段では70cm、下段で10cmであった。断面はV字形状を呈している。

遺構肩部の標高は、T-P・14.331mで深さ50cmである。底面での北端と南端との比高差は約15cmで、やはり溝A同様に北から南への水流過程があったものとみられる。

溝内堆積土層は褐色砂質土層で須恵器壺、甕、土師器壺、甕、高环、製塙土器、円筒埴輪  
韓式土器（図版5・6）が出土している。

今回の調査地外の北端にある国道163号線の側道を1977年～1978年にかけて大阪瓦斯天然ガス管理設に伴う調査を実施した際溝幅約4m、溝底幅約1.2m、深さ約1.4mの南北方向に流れる溝状遺構を検出しており、溝内最下層より製塙土器約1,000点が出土している。伴出遺物には、土師器甕、朱塗甕、須恵器环身、环蓋、無蓋高环、甕、器台や滑石製紡錘車、有孔円板、臼玉、馬の歯、馬の下顎、植物種子等が多量に出土している。当時の調査において今回の調査区内に溝状遺構が続いていると推定されていたが、溝A、及び溝Bは全く別の遺構であり、溝状遺構はもう少し南西の方向に流れていると今では推測している。

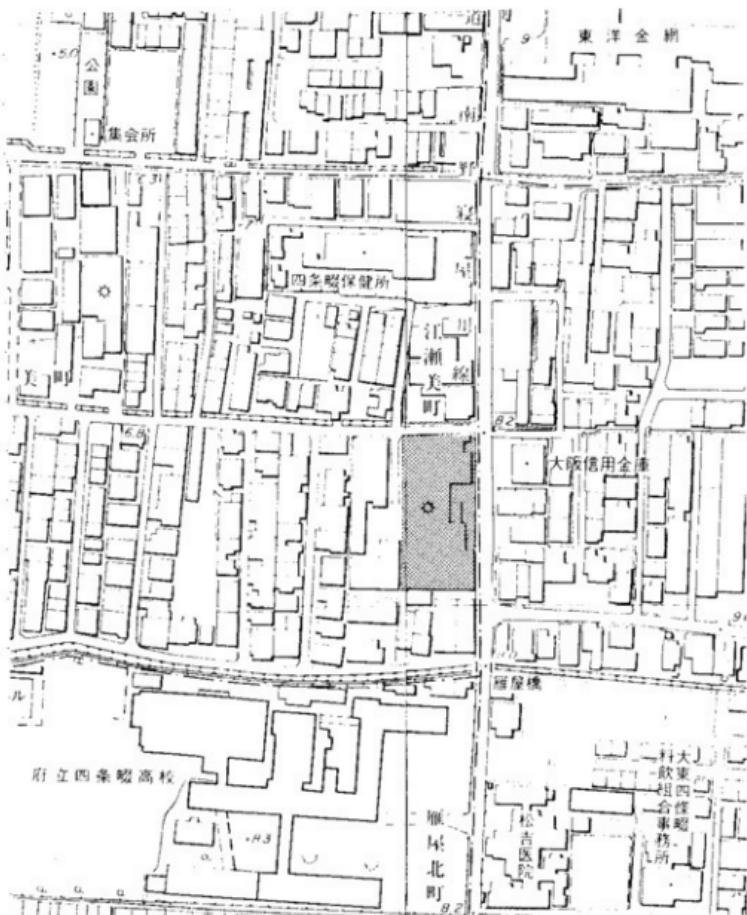


第3図 中野遺跡溝A・溝B平面実測図

# 第3章 雁屋遺跡第3次発掘調査

## 1. 遺跡の概要

雁屋遺跡は1983年5月に四條畷市雁屋北町370番の1、日本道路公団四條畷職員宿舎建設に伴う調査において、地表下約2.5mから鎌倉時代から室町時代の溝及び、古墳時代後期の



第4図 雁屋遺跡調査地位置図

土器片が出土し、その下層より弥生前期特有の黒色粘土層内から弥生前期の中段階にみられる器高66.5cm、口径36cm、最大肩幅63cmの大壺が出土している。中段階の削り出し突帯や新段階の貼付突帯がそれぞれ出土しているが、特に中段階の時期がこの雁屋遺跡において大きなウェイトを占めている。又、調査地の西端から弥生中期の壺と鉢を組み合わせた土器群1基が検出され、雁屋での弥生人は、前期・中期の二時期にわたって生活したものと考えられていた。

## 2. 調査概要

病院建設予定地内に7月23日に4ヶ所のトレンチを設定した。設定場所は建物予定地の四方隅に2m×3mのトレンチで南東及び南西隅の2ヶ所のトレンチから多量のV様式の壺、甕、高杯等の破片が出土した。北東隅の第4トレンチは地表下約40cm位から白色砂が約1m以上にわたり堆積し水量が多く調査を続行することが不可能なため、写真撮影後埋め戻しを行った。北西隅のトレンチ内は、旧阪本興業の工場内Pitの擾乱層で土砂がすべて油が含まれ上層観察が不可能な状態であった。

その後9月に第2回目の試掘調査を実施した。調査の目的は建設予定地全域に遺跡が検出するのかどうかということであり、7月の調査に補足する形で建物予定地東側に幅4m長さ50mのトレンチと北端に4m×20mのL字形の平面をなすトレンチを設定した。

その結果、南北第1トレンチ(図版9)内から溝状の落ち込み遺構を検出。黒色粘土層及び灰黒色粘質土層が堆積しており、各層内にはV様式の西ノ辻E(D)式の土器群や第III-VI様式の土器が含まれていた。

南北第3トレンチ(図版10)から白色砂層を遺構のベース面にした落ち込み状遺構を検出した。この遺構の時期は第V様式のものであった。このL字形のトレンチによって、やはり全域に遺跡が広がることが明らかになった。

その後10月から翌年2月までの本調査において、方形周溝墓(弥生中期初頭～後半)及び旧河川(弥生中期後半～後期)、大溝(弥生後期)、竪穴式住居跡(弥生後期)、周溝及び土壙土器群(弥生後期)が検出している。試掘調査において検出した南北第1トレンチは本調査で検出した第3号方形周溝墓の南東部に位置する周溝内にトレンチを設定していたものであり、又、第4トレンチの白色砂層は第1号方形周溝墓北側に検出した旧河川による生駒西麓から流れ砂の堆積であった。

## 3. 遺物

第1トレンチ内から出土した土器の器種は壺(広口壺・短頸壺・長頸壺)、甕等(図版12～16)すべての土器は第V様式の西ノ辻E(D)式併行期のものである。壺口縁部には凹線文、竹管文を加えた円形浮文を加飾している。又、甕は受口状口縁で貼付成形のものが

大半を占める。

第2トレンチ内から出土した土器の器種は広口壺、甕の第V様式の西ノ辻E(D)式併行期のものに含まれて第II様式の櫛描の直線文や流水文及び肩形文の土器が出土している。

南北第1トレンチの層位は2層に分かれて遺物包含層を確認することができた。上面の黒色粘土層内から出土した土器の器種は、壺、甕の第V様式で壺口縁部に凹線文が残っており西ノ辻E(D)式の一群と考えている(図版12)。又、下層の灰黒色粘質土層内から出土したものとしては第III様式・第IV様式の壺底部と土瓦1点(図版12)が出土している。

南北第2トレンチ内の層位は南北第1トレンチ同様に2層に分かれ堆積土層も同様である。出土した土器の器種は、壺、甕、高坏等で、第II様式の櫛描直線文の壺口縁部と流水文の土器(図版11)が含まれている。壺底部には粗粒が付着している粗痕土器1点が含まれている。

南北第3トレンチ内から出土した土器の器種は壺・甕・鉢・高坏(図版12~14)ですべてが第V様式のもので伴出遺物として石庖丁(図版17)1点が出土している。

図版一 中野遺跡周辺の航空写真



図版2 中野遺跡調査地全景

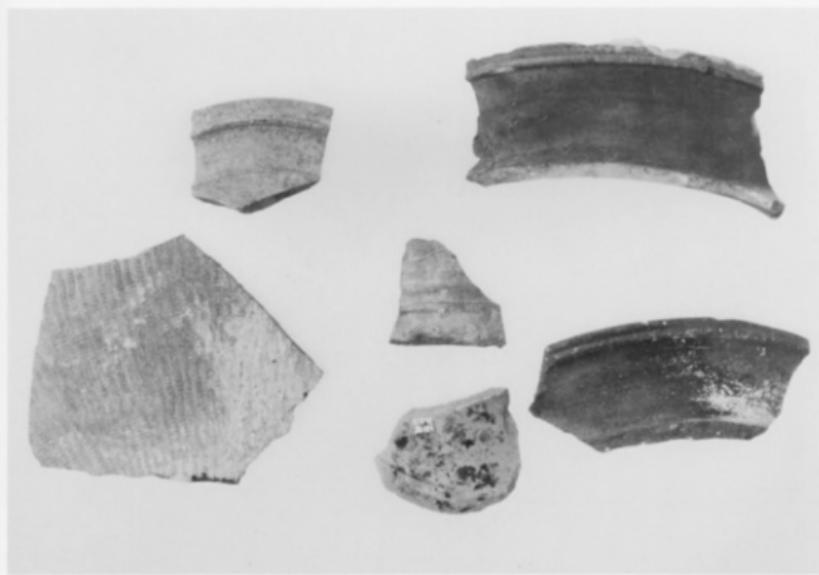


図版3 中野遺跡遺構検出状況・遺構全景





図版 5 中野遺跡遺物写真・土器 I



図版 6 中野遺跡遺物写真・土器 II



図版7 雁屋遺跡周辺の航空写真



図版8 雁屋遺跡調査地全景



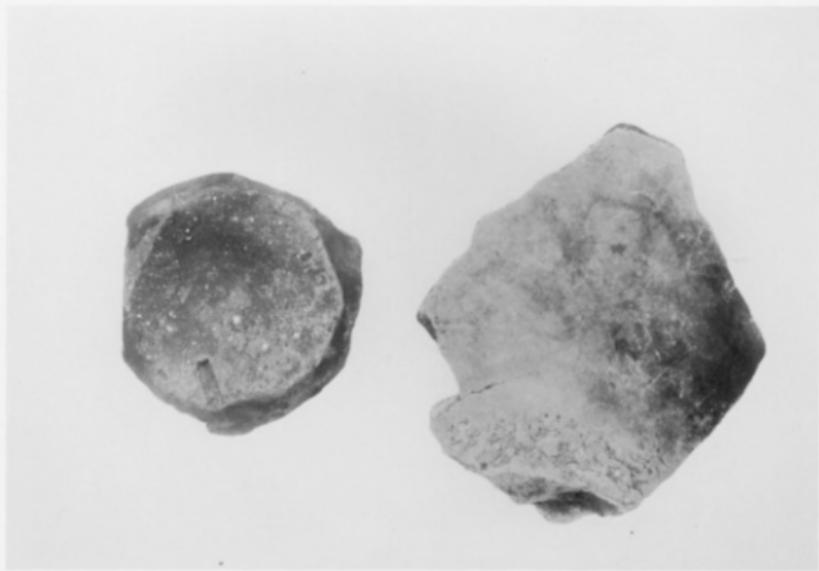
図版9 雁屋遺跡南北第一トレンチ

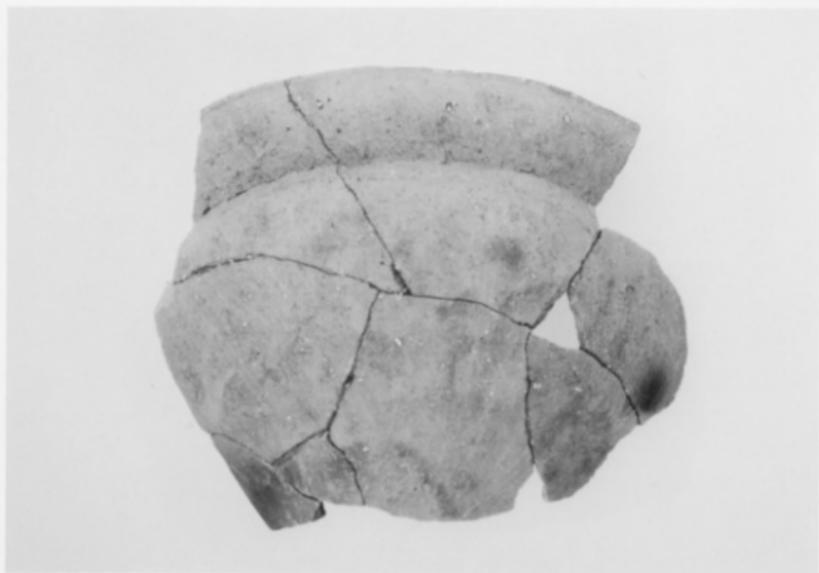


図版 10 雁屋遺跡南北第2・3トレンチ



図版 11 雁屋遺跡遺物写真・土器 I

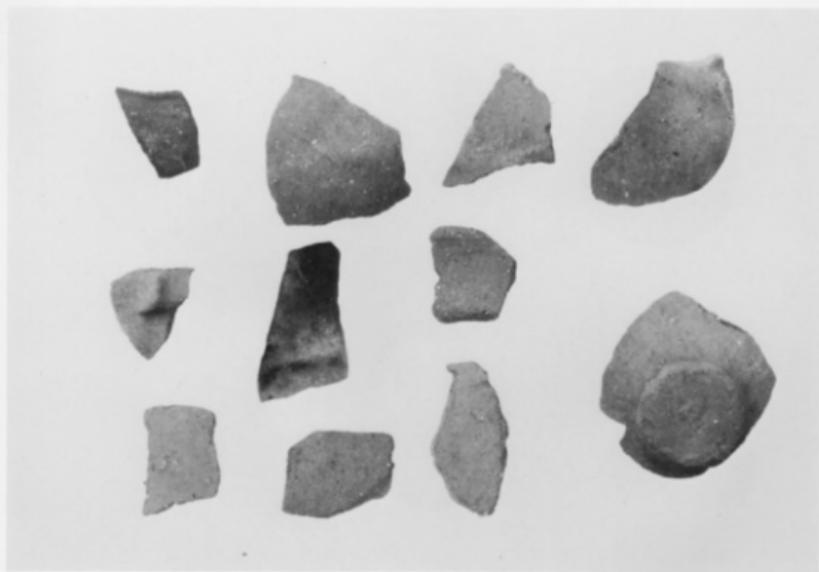
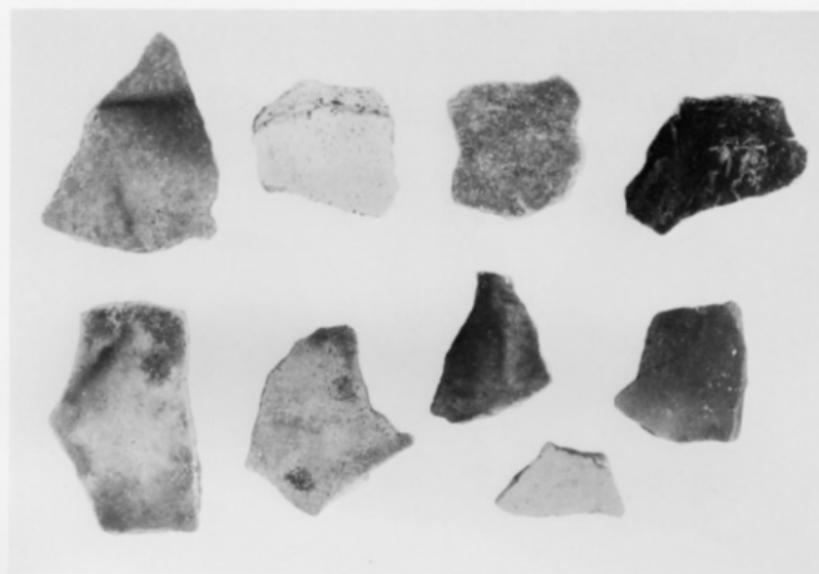


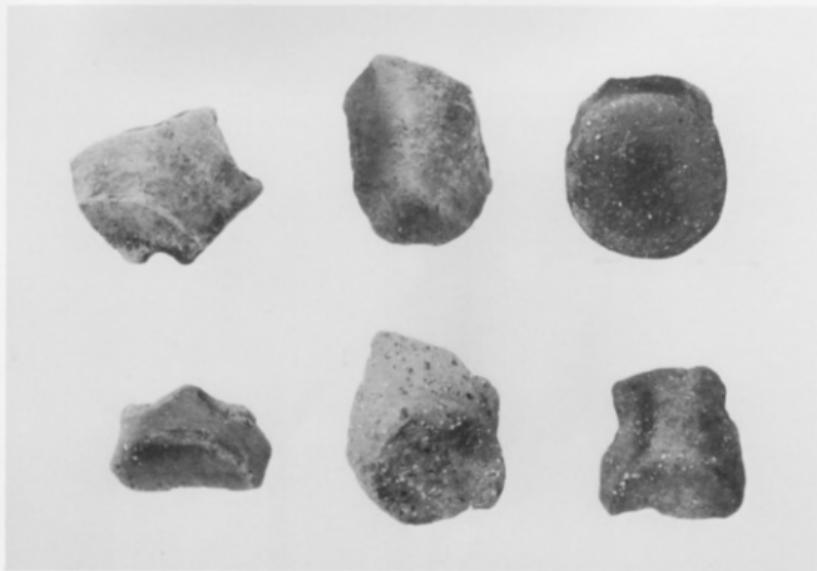


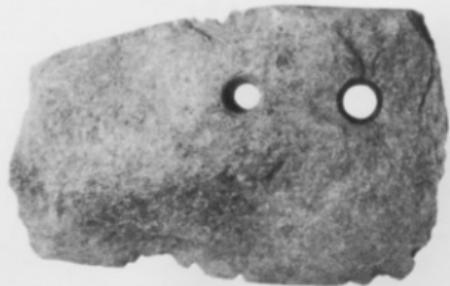
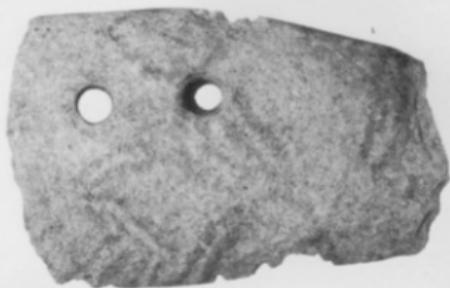
図版 13 雁屋遺跡遺物写真・土器Ⅲ











四條畷市埋蔵文化財発掘調査概要

— 1985 年度 —

昭和 61 年 3 月 発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会

〒575 四條畷市中野本町1-1

印刷 田中耕株式会社